

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870100953		
法人名	医療法人 富永病院		
事業所名	富永グループホーム		
所在地	福井県福井市西木田3丁目5番13号		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JinyosyoCd=1870100953-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームより50mぐらいの場所に母体の病院があり、日頃から頻りに病院と連携し安心安全に過ごしていただけるよう努めております。入居者のみなさま、一人ひとりを大切に、安心と信頼の介護を提供いたしております。入居者様がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、主治医、併設の病院の看護師、当職員それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しお世話させていただいております。一人ひとりがその人らしく生活していただくためにお好きな事、興味のある事、得意な事を続けられるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは四季折々の変化が感じられる自然な環境の中にあり、利用者は周りの山々を眺めながら頻りに散歩に出かけています。職員は利用者の尊厳を大切にしており、法人主催の接遇に関する研修を全職員が受講すると共にホームの会議の中でも管理者が事例などを挙げ職員間で話し合うなど学ぶ機会を多く持ち理解を深めています。接客業の経験のある職員を中心に全職員が接遇について再認識し人格を尊重した支援に努め、丁寧な優しい言葉かけに留意するよう取り組んでいます。また、母体が医療法人であり常勤の看護師も配置されており日々の健康管理を行い、利用者の日常の変化を速やかに捉え早期に受診できるよう対応をしています。病院関係者と頻りに相談や情報交換を行うなど利用者の健康面に対し細やかな配慮をし安心できる体制となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念をスタッフ及びご家族の目に付くところに掲示しており申し送り時に唱和している。月に1回グループホーム会議を開きスタッフ全員集まり理念に基づいたサービスを提供できているか話し合いをしている。	ホームの経営理念をリビングやエレベーターの中に掲示すると共に新任入職時には理念に対する思い等について説明し職員への意識付けを行っています。職員は尊厳の大切さや暖かい心を持って接することを忘れないよう支援し、毎月の会議の中でできているかどうかを確認し振り返りを行い理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方たちと挨拶を交わしたり、入居者さんと一緒に近くのコンビニへオヤツを買いに行ったりしている。	地域の情報は向かいのお寺の住職や近隣の職員から聞いています。コロナ禍以前は近隣のコンビニエンスストアに買い物に出かけ挨拶を交わしたり、近隣の神社の祭りにも参加しています。ホームの雑祭には近隣の子ども達、クリスマス会には自治会長や福祉委員の方の参加を得ており、ギターやフルート演奏等のボランティアの訪問もありましたが、現在では交流が難しい状況となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所に一人暮らしのご高齢の方がいらっしゃるので、声掛け見守りしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、ヒヤリハット、事故報告、入居者の状況等を報告。意見交換やアドバイスをいただきサービスの向上に活かしている。	会議は数名の家族や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催しています。利用者の状況や行事報告、対応策を含めた事故報告等を行い意見交換をしています。意見は活発に出ており職員間で検討し可能なことについては速やかに対応しています。案内や報告は参加した家族に渡しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が開催している講習にはなるべく参加している。地域包括支援センターとも連絡を取り合っている。	運営推進会議の議事録を届けたり書類の手続きや介護保険上等で疑問のある場合は直接出向きアドレスをもらっています。感染症等の注意喚起が届いた際にはポスターを貼ったり書面にて職員に周知しています。コロナ禍ではマスクや消毒液が届いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしている。身体拘束はしていない。	年1回法人主催の身体拘束に関する研修を受けた職員がホームで伝達し周知をしています。インターネットで得た身体拘束についての資料を基にホームで勉強会をすることもあり、不適切な対応があった場合は管理者が注意をしています。月1回、法人の身体拘束委員会があり管理者が出席し全職員に報告をしています。現在は外に出たい希望や不穏な利用者はおらず日々穏やかに過ごしています。	

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	富永病院での虐待研修に参加している。スタッフの言動があまりふさわしくないと感じた場合にはその場で注意して話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが職員とは話し合いをしていない。今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者さんやご家族の不安や疑問点を尋ね、わかりやすい言葉で十分に説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族の要望、意見は傾聴しなるべく運営に反映させている。	家族の意見や要望は電話や面会時に利用者の日々の様子を伝え話しやすい雰囲気を作り聞いています。居室の汚れ等の意見が挙がり職員に伝達し掃除マニュアルを変更し徹底して掃除を行う等得られた意見をサービスの向上等に反映しています。利用者からは食べたいもの、買いたいものの要望が多くおやつで対応したり一緒に買い物に出かける等可能な限り対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けよく話し合いをしている。できる範囲で反映させている。	職員の意見や提案は月1回の会議や日々の申し送り、業務の中で聞いています。職員会議は全員参加になっており活発に話し合いが行われています。合理的な業務を行い利用者との時間を増やすために勤務体制を変更したり、利用者に美味しい水でコーヒーを飲んでもらうため職員間で美味しい水の購入をする等職員の意見や提案をサービスの向上等に反映しています。管理者は随時職員への面談を行い意見を聞いたり相談を受ける機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が誇りを持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保をしている。		

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員の質、サービスの質を向上させていくために年間2回～3回の外部研修に参加している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。医療面では富永病院と密に連携し安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、できるだけ要望に応えられるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階でも入所中でも本人、家族等と「その時」についての話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって多少の差がある。入居者さんと信頼関係が築けるように管理者、職員共々切磋琢磨していく必要がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からは支援してもらっているという遠慮が感じられる。管理者、職員共々ご家族の気持ちを察しながら丁寧な対応して信頼を得ていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅で使っていた馴染みの物を居室に置き、友人知人の面会も支援している。	親戚や知人の面会があり居室やデイルームへ案内しお茶や椅子の用意をしゆっくり過ごしてもらえよう配慮しており、その際は一緒に集合写真を撮り面会者に送付しています。職員と一緒に近隣の神社まで散歩に行ったり、出た先が馴染みの場所だったり、馴染みの方と出会い会話を交わすこともあります。家族の協力を得て墓参りや親戚の集まる法事等に出かける際は身支度や薬等の準備をしスムーズに外出できるよう支援しています。現在はコロナ禍の為来訪や外出が困難な状況です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように入居者さんが同時に集まる時間と場所を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院に入院された場合でも継続的に本人様の様子を見に行き声掛けしたり、ご家族にお会いした場合には挨拶をしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人さんと話し合ったりご家族に相談し検討している。	入居前に自宅やサービス事業所、病院等本人が暮らしている所へ出向き、本人や家族と面談し暮らし方の意向や生活歴、趣味等を聞きフェイスシートに記載し、ケアマネジャーからの情報も得て思いの把握に努めています。入居後は日々の関わりの中で聞いており意思疎通の難しい利用者には家族から聞いたり表情や様子から汲み取り、気づいた点等を連絡帳や個別記録に記載し毎月の会議の他、随時検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人や家族や関係者から馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の情報を収集し職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録、介護日誌、連絡帳などで職員同士情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、職員、主治医、併設の病院の看護師等それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向のもと作成した介護計画は初回は2週間、以降は1ヵ月、3ヶ月で見直し、特に状況に変化がなければ6ヵ月毎に見直しています。その際にはモニタリング、再アセスメントを行い職員会議の中で話し合い事前に聞いた本人や家族の意向、必要に応じて医師や看護師の意見を反映させています。日々計画の達成状況を確認するためのモニタリングを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、ご家族にも連絡、相談している。職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為、介護相談員や学生さんなどのボランティアの受け入れは中止している。外出希望の入居者さんは近所を散歩したり一緒に買い物いたりとなるべく希望に応えられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は併設の医者に連絡。了解の上、本人及び家族の希望する医療機関に受診できるように支援している。	入居時に法人が医療法人であり連携体制が整っていることを説明し全利用者に協力医に変更しています。月1回の往診があり24時間連絡可能となっており、体調が思わしくない場合は直接病院に連絡し、受診等医師の指示を仰いでおり、日中であれば随時の往診もあります。ホームには常勤の看護師がおり利用者の健康管理をしています。専門医への受診は家族が対応し書面にて報告をもらい情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置している。日常での気づきをすぐに連絡相談し早期に受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は頻繁に行っている。関係づくりも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者さんの状況、身体の異常は小さいことでも病院に報告し指示に従って対応している。ご家族には現状報告とともに事業所で出来る範囲の事を詳しく説明している。	入居時、家族に重度化した場合は病院を受診してもらい医師の指示のもと対応することを説明しています。現状では看取りの支援は行っていないが、利用者のその時々状況を家族に報告しながら話し合いをしていく予定です。以前には看取り支援を行った経緯もあり今後もホームで状況に応じてできる限りの支援していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院から緊急時の対応方法について教わっている。緊急時は病院から駆けつけてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年に2回避難訓練を行っている。日中想定1回、夜間想定1回。地域の方にも協力をお願いしている。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜間を想定し通報、初期消火、利用者の参加を得て避難誘導等の訓練を行っています。運営推進会議で案内や報告、参加依頼をし自治会長や民生委員の参加を得ることもあります。食料の備蓄はしておりませんが、懐中電灯の準備をしています。	災害時には物資等届かない状況も考えられますので、当面の飲料水や食糧等の備蓄について検討されることを期待します。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に関しては75点。古いスタッフほど馴れ馴れしい？言葉遣いをする傾向がある。その都度注意している。	法人主催の接遇マナーの研修に全職員が参加し理解を深めており、会議の中でも事例を挙げて勉強会を行っています。接客業に就いていた職員を中心に人格を尊重した支援に努め、声のトーンにも留意しながらできるだけ丁寧な言葉遣いで対応し、呼称は苗字で呼ぶようにしています。不適切な対応があった場合は都度管理者が注意をしています。入浴介助等羞恥心を伴う場合は希望があれば同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるような雰囲気作りをしている。基本的には受容共感の姿勢で接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを理解し、その日の過ごし方はなるべくご希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの好みに合ったおしゃれをしていただけるよう支援している。洋服を着替える際には本人さんに選んでもらっている。本人のできる範囲で身だしなみをきれいに整えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けをできる入居者さんは現在いらっしゃらない。食事は病院で作ってもらい盛り付けは職員がおこなっている。	食事は管理栄養士の立てた献立を基に三食とも病院の厨房から届き、職員が盛り付けを行い提供しています。献立は暦の上での行事食や旬の物などにも配慮しています。時には行事担当者が中心になりホットケーキやケーキのトッピング等おやつと一緒に作ることもあります。	月に一度でも利用者の好みの物を取り入れ職員と一緒に作り食事も共にされることを期待します。また、外食やイベント食なども取り入れるなど食事が楽しみなものとなるよう工夫をされてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を毎回チェック、水分量の少ない方には声掛けしている。病院、管理栄養士と相談しながら一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に本人の力に応じた口腔ケアを実施している。入歯は毎日就寝前に預かり消毒、起床時に装着していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、時間や様子をみながら声掛けや誘導、自立に向けた支援をしている。オムツを使用している入居者さんも定期的にパット交換している。	全利用者の排泄チェック表によりパターンを把握しながらタイミングや仕草を見逃さないように声をかけ、ポータブルへの誘導をしています。夜間は安眠のためにおむつを使用している利用者もいます。退院後おむつ使用だった方が声かけや誘導等の支援を行うことで紙パンツに変更する等改善した利用者もいます。排泄用品や支援方法については会議の中やその都度検討しており病院の機能訓練士と相談することもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い3日排便が無い場合には病院に連絡、指示をもらっている。便秘しないような飲食物の工夫、体操などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間ごとに入浴計画を立てている。入居者さんの気分や身体の状態に合わせて入浴支援している。体調があまり良くない時には病院に連絡、指示をもらっている。	入浴は週2回を目途に午前中に行い、希望があれば午後入浴や回数を増やすことも可能です。拒否がある場合は日時を変更したり、職員を変更する等利用者に無理のないよう入浴してもらっています。好みのシャンプーを持参している方もおり職員とゆっくりと会話を楽しみながら入浴する利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんそれぞれの生活パターンの把握に努め、適度な休息ができるように支援している。日中はなるべく身体を動かし夜は自然に眠れるよう部屋の環境にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。症状に変化があるときには病院に報告。指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みの活動をしていただいている。ご家族にも趣味や好きな事を聞いてなるべく希望に沿えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	必ず希望に添えてはいないが入居者さんの体調を確認してから戸外に出かけるようにしている。ご家族にも協力してもらっている。遠出の場合には主治医の許可をもらって外出するようにしている。	近隣のコンビニエンスストアへの買い物に出かけていましたが、コロナ禍では外出が難しくなる中日々の散歩は季節を感じてもらえるよう支援しています。コロナ禍以前は菊人形等へ出かけたこともありますが外出支援については今後の課題と考えています。	コロナ禍で外出ができない状況であっても、散歩以外に玄関先にベンチなどを置き外気浴などをされてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は管理者が入居者さんごとに預かっている。使用する際には事前にご家族に連絡。納品書、請求書、領収書、金銭出納帳の写しをご家族にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける入居者さんはいらっしゃらないが、自らが電話をされる入居者さんがいらっしゃるの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの声の大きさ、TVの音量、温度には特に気を遣っている。イベント時の写真、手作りの飾り物、観葉植物、季節の花、季節に応じた入居者さんの作品などをダイルームや食堂に飾り季節感を採り入れている。	リビングや窓辺に生花を活けたり、観葉植物を置き利用者と一緒に作成した季節ごとの貼り絵の他、行事の写真等も貼り温かい雰囲気を作っています。ダイルームにはテーブルやソファを置き、利用者がゆっくりと過ごせるように工夫し、室温については利用者の体感を聞きながらエアコンにて調節し、換気や掃除を毎日行い快適に過ごせる共有空間作りに努めています。リビングのテーブル席については利用者の相性により変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルームにテーブル、ソファ、椅子を置きお好きな時間にくつろいだり独りになれたりおしゃべりができるような居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている家具や寝具をもってきていただき、照明、室温にも配慮し居心地よく過ごせるようにしている。	入居時に馴染みの家具を持参してもらうよう伝えタンスやテレビ、ラジオ等持参し家族と相談しながら配置しています。家族の写真、本、自身の描いた絵等大切な物や趣味の物も傍に置き、その人らしい居室となるよう工夫をしています。居室には洗面所が設置されており、基本は和室ですが希望によってホームでフローリングを敷き洋室にする方もいます。換気は毎日行い、2日に1回掃除をし心地良く過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、わかる事を全職員が把握共有しているが、自立より安全に比重を置いている。今後の課題である。		